



2022春闘シリーズ①

未来に向け安心できる昇級係数4を勝ち取ろう!

赤字決算下で行われた2021春闘は、会社発足以降初めて昇級係数が2となる事態となりました。定期昇給が半減したということはどういうことなのか？私たちの未来にどのように影響するのか？赤字だから仕方ないことなのか？賃上げ交渉を中心とした春闘シーズンを迎えたこの時期に考えてみましょう。



定期昇給とは何だろう？昇級係数が減るとどうなる？

毎年一定の時期に、定期的に行われる昇給を「定期昇給」といいます。毎年少しずつでも賃金が上がるので、同じ会社に長く勤めれば勤めるほど多くの給料がもらえることとなります。賃金規定では昇給額は『所定昇給額 × (昇級係数 - 昇級調整係数) × 1/4 + 特別加給』と定められています。昇級係数も賃金規定で4以内と定められていますが、JR東日本は会社発足から昇級係数4としてきました。昨年初めて昇級係数を半減させました。指導職であれば所定昇給額が5500円なので、2800円しか昇給しなかったこととなります。

定期昇給が半減するのは赤字だから仕方ないの？



前年に退職した社員の賃金と、新しく入社した社員の賃金の間には大きな差があります。その差額を定期昇給の原資に充てています。そのため、社員数に変化がなかった場合には、定期昇給を行うだけであれば人件費は変化しないこととなります。JR東日本のように、退職者の数が新入社員の数を上回る場合には、定期昇給していても人件費は減少することとなります。

東日本ユニオンに加入して賃上げを実現しよう!